

第5回
本郷祭りーダ一演技披露
～本郷×城北 本城戦応援合戦～

主催	本郷学園応援委員会
友情出演	城北学園応援同好会
協賛	本郷学園生徒会 本郷祭実行委員会 吹奏楽部(中・高)

平成25年9月22日(日)

開場 14:30

開演 14:40

於:本郷中学校・高等学校体育館

本郷学園応援委員会

<http://hongouen.web.fc2.com/>



沿革

本会の母体は、もともと体育祭を中心に活動していた有志の応援団です。この応援団が平成18年より行っていた応援合戦を更に充実させるという目的で、平成20年には体育祭実行委員会内に応援部が新たに組織されました。その後、体育祭のみならず学校生活における様々な場面において、応援活動を通して学校全体の力となる存在でありたい、という機運が高まりました。そうした生徒たちの熱意によって、平成24年4月7日、前述の応援団と応援部が合併し、6年間の準備期間を経て、本会は学校公認の常任委員会として発足したのです。

現在、指導部員と呼ばれる23名を中心に、体育祭応援合戦、記念式典・同窓会・オープンキャンパス応援、各部競技応援・壮行会など、母校の発展のために多岐に渡る活動を日々展開しています。

演目

一、応援歌	副将	山田駿也
旗手・鼓手紹介	旗手隊長	酒井秀哉
	鼓手隊長	渡邊大雅
二、必勝の応援メドレー	総務部長	加藤遼一
三、本郷音頭	リーダー部長	斎多遼太郎
司会進行	主将	増本洋行

城北学園応援同好会



沿革

本会は、平成24年度に体育祭実行委員会内に組織された有志による応援団を母体としています。この有志応援団は、十数年にわたって中断されていた体育祭における応援活動を復活させることを目的として、高校生約20名で組織されました。

体育祭での活動終了後、参加していた生徒の中から、「(将来、正式な「クラブ(部)」の一つとなることを念頭に)同好会として組織するのも良いのではないか」という意見が出されました。これに共鳴した高校1年生(当時)有志により、「応援同好会」設立への準備が開始され、学内の規約に基づく手続きを経て、平成24年12月、正式に同好会として認可され、発足しました。

発足後は、硬式野球部の大会におけるスタンド応援、全国大会・関東大会に出場するクラブの壮行会の他にも、平成24年度卒業式における卒業生への応援や同窓会総会での応援披露など、活気ある学園作りの一助となるべく積極的に活動を行っています。

演目

- 一、応援曲「VIVA城北」
 団旗紹介
- 二、応援曲「アルプス」
 「チャンス城北」
- 三、校歌

部員紹介

団長	菅井学
副団長	上田和範
リーダー長兼渉外	奥田隼斗
新人監督兼旗手長	工藤脩人
鼓手長	野村豪

本郷・城北二校間応援共同宣言〔本城（城本）応援憲章〕

我々は、両校の応援精神を基調とする団体（以下「応援組織」）が、中等教育の一環として積極的な交流を通じ、日本の伝統的な応援文化を継承しつつ今日の需要を的確に捉え、今あるべき応援活動を主体的に実践することで健全な人格を育むとともに、その有用性について広く社会に浸透させることを目的として、この憲章を採択した。

今日、生徒（学生）によって伝統的に組織化された応援活動を行う、いわゆる「応援団」の文化が著しく衰退している。今や「応援団」活動を見る機会が稀有であるがゆえに、一般生徒を含め世間には応援組織の姿が珍妙に映るようで、時代遅れ・時代錯誤とも捉えられている風潮も否定し難い状況にある。

しかし、この応援という活動は利他主義を根底としており、他者のために精一杯応援するという行為は、他者の立場を理解し、相手の思いを汲み取ろうとする姿勢を育み、ひいては健全な人格形成という、教育的効果に十分資すると我々は確信してやまない。国民が等しく教育を受ける権利を持つことは憲法が保障するところであり、中学校・高等学校の生徒にとっての応援活動とは、この権利を実現すべき学校教育の、極めて有用な行為として位置付けられると考える。この意味で、応援活動は経済的な対価を求めず、心身を鍛える恰好の場として捉えることができるのである。

かつて「応援団」を標榜する多くの団体が、傍若無人な振る舞いをすることを応援団的な態度と勘違いし、世間の評価を著しく低下させた時代があった。今日の応援組織の低迷も、過去のこの行いが間違いなく影を落としており、我々も「応援」の名を掲げる以上、このことを深く反省せねばならない。

本来の応援精神とは、前述した通り利他主義が本懐であり、それはボランティア精神である。自分自身のことではなく、頑張ろうとする他者を支援すること。また、同じように支援したいと思う多くの人々をリードし、一つにまとめ、大きな力へと換えて頑張る人へ送り届けること。これが今も昔も変わらない、応援組織の存在意義であるはずである。そのためには、頑張る対象者の気持ち、そしてその人を応援しようと思っている人々の気持ちを汲み取り、信頼を勝ち得た上で、全ての人々が一番望んでいることを代弁できるような技術が要求される。

我々は先人が積み上げた伝統的な応援文化を継承しながらも、かつての過ちを過ちと理解し、威圧的・暴力的・反社会的な姿勢を一切排する。その上で、両校それぞれの建学の精神や教育理念をお互い尊重し合いながら切磋琢磨し、今日どのような応援活動が望まれているのかを深く探究することを常に怠らない。実践を重ねることで今日求められている新しい応援のスタイルを確立していくとともに、「教育を受ける権利」を前提とする応援活動が、教育の一環として広く社会に理解・支持されるよう努力精進していくことを、ここに宣言する。

本郷学園応援委員会監督 横尾朗大
城北学園応援同好会顧問 仁科伸康